おがぴ～通信

おがさわら耳鼻咽喉科クリニック　vol.2

今回は別名「静かなる中耳炎」について！！

2012年11月9日　発行

痛くない中耳炎 － 子供の滲出性中耳炎 －

「最近、子供が会話中に聞き返しをするようになった」とか「テレビを近くで観るようになった」ということはありませんか。これらは**滲出性中耳炎**でみられる症状です。滲出性中耳炎は大人でもなることがありますが、就学前の子供に多くみられます。
今回は、子供がなりやすい中耳炎の一つである滲出性中耳炎についてご説明したいと思います。

▼なぜ、滲出性中耳炎になるのでしょうか？

滲出性中耳炎では、かぜや鼻炎、副鼻腔炎などの鼻汁や鼻づまり、鼻すすりの繰り返しに伴い、鼓膜の奥にある中耳腔（図1）に溜まった液体（貯留液、図1）が消えずにそのまま残ってしまいます。急性中耳炎になった後の貯留液がそのまま残ってしまう場合も多いです。**耳の痛みや発熱が治まったから中耳炎が治ったと思い込まないことも大切です。**

▼では、どんな症状がみられるのでしょうか？

滲出性中耳炎の貯留液は、耳の痛みや発熱を生じず**聴力の低下のみを生じさせます。**特に、貯留液が両耳にたまると、冒頭に述べたような聴力低下の症状が顕著に現れます。
ところが、子供の場合、聴力低下の症状を自ら訴えることはそれほど多くありません。従って、聴力低下によって日常のコミュニケーションや学習に支障が出ないように、周りの方々が滲出性中耳炎の存在に早く気づいてあげる必要があります。

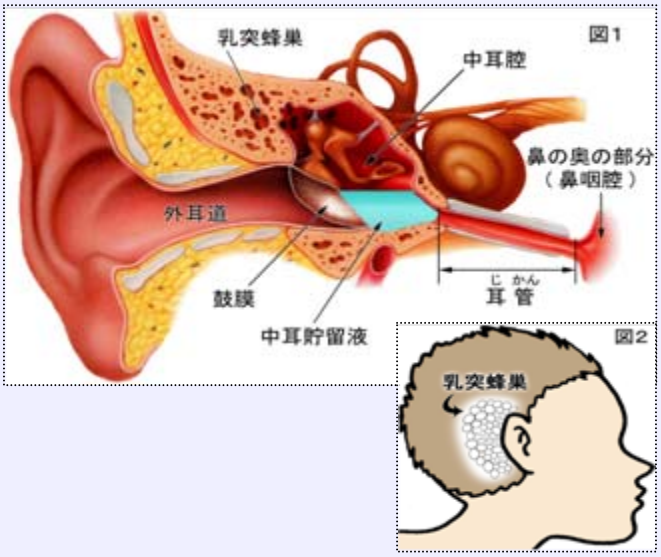
▼どうすると治るのでしょうか？

耳と鼻をつなぐ管である耳管（図1）の機能を改善する必要があります。そのためには投薬や鼻処置（鼻の中をきれいにする）によって鼻症状を改善させるほか、鼻から耳管に空気を送ること（耳管通気）をします。**ご自宅でも鼻をかむ練習や鼻吸い器で鼻汁を取り除くことをお勧めします。**

更に、聴力低下が著しい場合や貯留液が長期間取れない場合は、鼓膜切開をして貯留液を吸引することもあります。

▼どういう経過をたどりますか？

耳の後部の骨にある乳突蜂巣（図2）というハチの巣状の空洞が発育し、耳管機能が良好であれば、貯留液は取れやすくなります。乳突蜂巣や耳管の発育に伴い、就学年齢に達する頃には多くの子供の滲出性中耳炎は改善します。しかし、就学前に滲出性中耳炎や急性中耳炎が繰り返されると、乳突蜂巣や耳管が発育せずこれらの中耳炎は治りにくくなります。根気よく治療を受けるようにしましょう。



～小さなお子さんの聞こえていないかな？のサイン～

小さなお子さんは様々な表現で聞こえないことを表現します。
●「耳が変」「耳に音がする」・・・・など。

また、小さなお子さんは聞こえていないことを訴えることが出来なかったり、聞こえないことを気にしない場合も多々あります。周りの人がちょっとしたサインに気付いてあげる事が大切です。

●夜泣き、寝ない、機嫌が悪い。
●しきりに耳をさわる、頭をふる。
●テレビの音量が大きくなった、テレビに近づいて見るようになった。
●問いかけに対して聞き返す、反応が悪い。
●声が大きい。
●言葉が正確に発音されない。・・・・など。

※当院ではお薬手帳を持っている方に受付時に提出をしていただいています。これは現在飲んでいる薬と当院で処方する薬が重複しないか、飲み合わせに問題はないか知る上で非常に重要です。

また、現在薬を飲んでいなくても最近まで他院で薬をもらっていた場合、処方内容に関係する場合がありますのでご協力お願いします。

・・・滲出性中耳炎といわれたら・・・

ご家庭で気をつけていただきたいことをご紹介します。

1．鼻水の掃除をたくさんしましょう。

鼻をかめない小さなお子さんには、保護者の方が鼻吸い器（市販のものでかまいません。口で吸引するタイプがいいでしょう）で積極的に溜まっている鼻汁を吸い取ってあげてください。
鼻をかめるお子さんには正しい鼻のかみ方を指導してあげてください。ポイントは「静かに片方づつかむこと」です。強くかんだり両方いっぺんにかんでしまってはいけません。

2．鼻すすりはやめましょう。

鼻をすすると中耳炎が悪化する一因になりますので、根気よく注意してやめさせましょう。

3．風邪の予防につとめましょう。

医療法人社団 おがさわら耳鼻咽喉科クリニック
札幌市北区北24条西14丁目3番8号メディカルプレイス3F
（TEL）011－737－3387　（URL）http://www.oga3387.com/

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○
14:00～18:00	○	○	○	／	○	／